

生徒指導研修会報告書

日時 11月9日(火) 13:30 開会

参加者 現地 29名 オンライン 8名

講師 一般社団法人青少年ネット教育アカデミー 齋上達様

内容 「高校生年代におけるスマートフォンやSNS利用の諸問題を考える」

ネット依存対策やSNSなどのトラブル対策についての講演を聞いた。スマートフォンの依存傾向と、学力や問題傾向(生活習慣の乱れからくる精神的な不安定)は関係している。デジタルタトゥーと称されるように、ネット上にあげたものは一生消すことが出来ずに、その後の人生に大きく関わる可能性も高い。SNSなどは非常に便利で使いやすい半面で、何をアップするかを判断する能力は、身に着けなければならない。生徒への具体的な伝え方としては「インターネットへの投稿は自宅の玄関ドアに貼っても良い内容にしましょう。」というのが響くようである。

インターネットの依存傾向が高い生徒の特徴として、「目標」が定まっていないという場合が非常に多い。そういった生徒には、(学校)生活に対して目標を持つように勧める。目標があると生活習慣に変化が見られ、インターネットの利用時間も減少するなど依存に対しても効果がある。

スマートフォンの長時間の利用は学力を破壊するデータもある。同じ時間学習していても、スマートフォンを近くに置いてあるか離れた場所(意識外)に置いてあるかで、テストの点数も変わるという結果だった。まずは使用時間の制限(2時間以内等)や、学習時にはスマートフォンを特定の場所に置き音も鳴らないようにするなど、出来ることから始めていく必要がある。

中高生の多くはSNSの経験があり、SNSを辞められない中高生も多く存在する。そのような生徒は、承認欲求の正しい満たし方を指導していく必要がある。インターネット上の人間関係だけでなく、リアルな中で認められるような人間関係を築く必要がある。家庭・学校(クラス・部活)などの中で、安心して暮らせる環境を提供出来るようにしなければならない。

インターネットやSNSが急速に普及したことにより、利便性は非常に高まったが、その反面で危険性やトラブルも多く出てきている。今では各企業で「SNSの使用ガイドライン」のようなものを作成しているところも多い。ネットリテラシーが欠如している若者が多く、「会社の信用を傷つけるような投稿をしてはいけない」等の規約を定めている場合が多くある。軽はずみな行動で人生を棒に振ることが無いように、指導をしていく必要がある。

依存傾向が強かったり、なかなか改善出来なかったりする場合には「使用状況の可視化」をし、自身の生活を振り返ることが有効である。1週間など一定期間の生活をシートに記入することで、どのような生活をしているかが一目でわかり改善に向けて行動を改善することが出来る。

情報交換会

5グループに分かれての情報交換会を実施。*記録は別紙。

テーマ「校則の見直しについて各校の取り組み」

「各校の指導事例における対応とトラブル」